

教員養成課程の学生を対象とした食育を推進

～日本教育新聞社～

- 北陸、近畿、九州の3つの大学の教員養成課程の学生を対象として、農業体験活動や食育授業プログラムづくり、地域の伝統食材をテーマとした食育活動等を実施。
- 各大学における取組を日本教育新聞に掲載するとともに、教育関係者・学生向けのフォーラムを開催。

【ポイント】

- ・学生時代の食育体験が、将来教員となった際の食育授業に活かされることが期待
- ・教育専門媒体である日本教育新聞に記事として掲載することにより、教育関係者に広く啓発

～取組内容～

- ・将来の食育活動の発展・普及において、キーパーソンとなりうる教員を目指す学生を対象に、食育に関する理解を深めるための取組を実施。
- ・上越教育大学（新潟県上越市）、武庫川女子大学（兵庫県西宮市）、大分大学（大分市）の教員養成課程の学生、のべ1,027名を対象として実施。
- ・日本教育新聞紙面上にて、各大学の取組について取材・掲載を行うことにより、読者である教育関係者に対して啓発。また、上越市内で各大学の取組を発表するフォーラムを開催し、県内小学校教員や大学生など47名が参加。

～事業成果（学生の声）～

- 実際に教壇に立った際には、自分自身が経験したことをしっかりと生徒に伝え、食の大切さや日本の農業、ふるさとについて考えることのできる授業をしたい。
- 今後の授業づくりに生かし、子供たちに地元の食文化や発酵の魅力を体験的に学んでもうことで、地域に愛着の持てる子供を育てたい。
- 教師になったら、早速、食育の授業を取り入れてみたい。

【上越教育大学の取組】

- ・上越市は「発酵のまち」であることから、発酵食品を基本テーマに、発酵食品を学ぶ座学や、実際のみそづくり体験、発酵食品を使った料理教室等を実施し、食育に関する理解を深めた。
- ・計22回開催し、のべ449名が参加。



講師を招いてのみそづくりや郷土料理教室などを開催

【武庫川女子大学の取組】

- ・食体験や農業体験をもとに、小学校で実践する「日本型食生活を学ぶ食育プログラム集」を作成する活動を通じて、食育に関する理解を深め、小学校教師としての実践的な指導力を習得。
- ・のべ406名が参加。



自分達が作った食育プログラムが、地元の小学校で実践される様子を見学する学生

【大分大学の取組】

- ・年間を通じた多様な農作業体験やボランティア体験を通じて、子供たちや地域住民との交流により、実践的指導力の向上を図った。
- ・のべ172名が参加。



棚田での田植え体験を行う学生。秋には自分達の作った米や野菜で、地元農家の指導を受けながら郷土料理を作った